

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 男木島の水仙を訪ねる

講師 妹尾 共子（高松市文化財保護協会理事）

日時 平成31年2月24日（日）



共催

高松市歴史民俗協会

高松市文化財保護協会

高松市教育委員会

目次

5	4	3	2	1
水仙郷	男木島灯台	豊玉姫神社	男木交流館	男木島
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
7	6	4	3	1

1 男木島

男木島の名前の由来は、対岸の女木島の「メ」に対する言葉で、島を男女に見立てて命名されたという説や、「大姫（豊玉姫）島」からきたという『古事記』にまつわる説がある。島には平地がほとんどなく、斜面に石垣を築いて造った集落が特徴的である。

鎌倉時代から、対岸の香川郡笠居郷に本拠をおいた豪族香西氏の領地であり、室町時代の末頃には香西氏の一族であった高原氏が所有していたと伝わる。江戸時代に入り、寛文十二年（一六七二）幕府の直轄地（天領）となったが、その後、高松藩の預かり地となり、大坂、倉敷、各代官所の支配に属したりした。

明治維新後も倉敷県、丸亀県、名東県、愛媛県などに属したが、明治二十一年（一八八八）には香川県に



属することとなった。二十三年（一八九〇）には女木・男木島併せて雌雄島村が誕生し、翌年には男木尋常小学校が開校した。昭和三十一年（一九五六）に高松市と合併し、現在に至る。平成三十年十月時点で世帯数は約一一〇戸、人口は約一七〇人。

近年若年層の流出等により過疎化が進んでいたが、平成二十二年に開催された第一回瀬戸内国際芸術祭では、累計約十万人の観光客が訪れた。瀬戸内国際芸術祭は、二十五年、二十八年にも開催されたが、これをきっかけに「ターン、ウターン」等で男木島へ移住する人が増え、二十六年には小中学校が、二十八年には保育所も再開し、図書館も開館した。

三十一年四月二十六日から始まる瀬戸内国際芸術祭二〇一九においても会場の一つとなっている。



男木島図書館



2 男木交流館

男木交流館は、瀬戸内国際芸術祭二〇一〇の際に、スペインを代表するアーティスト、ジャウメ・プレンサが手掛けたアート作品（「男木島の魂」）。

貝殻をイメージした白い屋根には、日本語、ヘブライ語、アラビア語、ラテン語、中国語、ギリシャ語、ロシア語、ヒンドゥー語の八つの言語が不規則に並んでおり、日中はその影が地面に映る。夜はライトアップされ、昼間とは違った趣が楽しめる。

男木交流館は現在も観光案内所や地元の人々との交流の場として活用され、男木島の新たな名所となっている。

★ジャウメ・プレンサ（一九五五、スペイン）

スペインを代表する世界的アーティストで、鉄やガラス、ブロンズなどの素材に哲学的なメッセージを含め、独創的な立体作品の制作で知られる。

他の作品は、東京都港区の虎ノ門ヒルズにある「ルーツ」など。



3 豊玉姫神社

豊玉姫神社は、創建が天正八年（一五八〇）と伝えられ、豊玉姫命（とよたまひめのみこと）を祀った神社である。豊玉姫命は神武天皇の祖母にあたる。子孫繁栄、安産の神様として知られ、この神社に伝わる子安貝（神具）でお神酒をいただくは無事にお産ができると言われている。

港の大鳥居から参道に通じており、階段を上りきると島の集落や瀬戸内海が一望できることから絶景スポットとしても人気を集めている。

★豊玉姫伝説

その昔、狩りの上手な山幸彦（やまさちひこ）と釣りの上手な海幸彦（うみさちひこ）という兄弟がいました。

ある日のこと、二人はお互いの道具を交換して、山幸彦は海へ、海幸彦は山へと出かけます。



釣りに出かけた山幸彦は、大槌・小槌の間で釣針を落としてしまいます。困り果てた山幸彦の前に、海の神様が現れ、「ここから東へ行くと島がある。そこに探している釣針がある。」と言います。そしてたどりついたのが、ここ『男木島』だったのです。

上陸した山幸彦は、ここで美しい豊玉姫と出会い、お互いに一目惚れをします。

やがて身ごもった豊玉姫は、子浜（こもがはま）で出産します。その姿を覗いてはならないという約束を破り、山幸彦はつい覗いてしまいます。なんと姫はワニ（サメ）の姿になっていたのです。その姿を見られてしまった豊玉姫は、とても恥ずかしく思い、男の子をおいて、海深くへ帰ってしまいました。（豊玉姫神社看板より）

※生まれた子は、アマツヒコヒコナギサタケウガヤフキアヘズ（鵜葺草葺不合命）と命名された。この鵜葺草葺不合命が叔母である玉依姫（タマヨリヒメ。豊玉姫の妹。）と結婚して生まれた四人の御子の末子が神武天皇（カムヤマトイワレビコ）である。

※豊玉姫の夫である山幸彦（彦火火出見命・ヒホホデミノミコト）は、男木港から徒歩約十五分のところに存在する加茂神社に祀られている。また島内には他に豊玉姫と山幸彦が出会ったといわれる「神井戸」もある。子の鵜葺草葺不合命は屋島西町浦生の鵜羽神社に祀られており、玉依姫は女木島に祀られている。



4 男木島灯台

男木島灯台は、日清戦争直後の明治二十八年（一八九五）に起工され、同年十二月十日に点灯された。総御影石（庵治石）造で、日本に二基しかない無塗装（無垢）灯台の一つである（もう一つは山口県の角島灯台）。昭和三十二年（一九五七）の映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ地としても知られる。

灯台完成後は、職員が家族とともに移り住み、孤立した環境の中で灯台の管理を行ったが、昭和六十二年（一九八七年）に無人化され、灯台に隣接する職員宿舎は灯台の歴史をテーマとする灯台資料館として整備された。

建設から百年以上経過した現在においても保存状態が極めて良好で、建築当時の姿を残しているため、平成十五年には土木学会により歴史的価値の極めて高いAランクの保存灯台として土木遺産に認定された。また、日本の灯台五十選にも選ばれている。灯台内部は催事時を除き、普段は一般公開されていない。



5 水仙郷

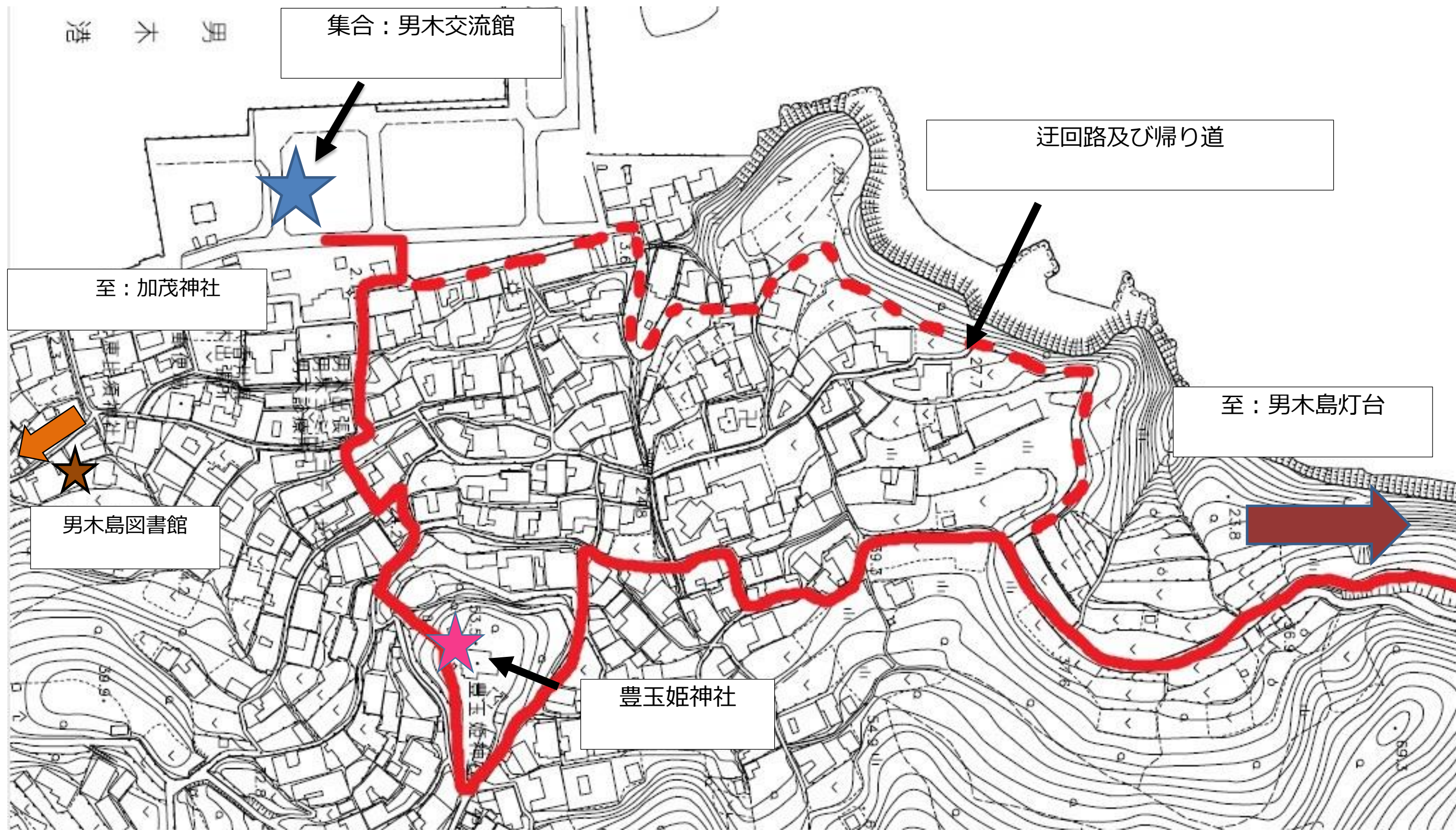
平成十五年十月に男木島の自然を周遊できる全長千六百メートルの「瀬戸内海国立公園男木島園地」通称男木遊歩道が完成した。この遊歩道を歩くことで、先人たちが残してくれた自然という遺産の大切さ、素晴らしさを体感し、未来へ引き継いでほしいという願いから、古くから島に自生していた日本水仙の移植事業が、男木水仙郷をつくる会により行われた。現在は約千百万本の水仙が見事な花を咲かせている。



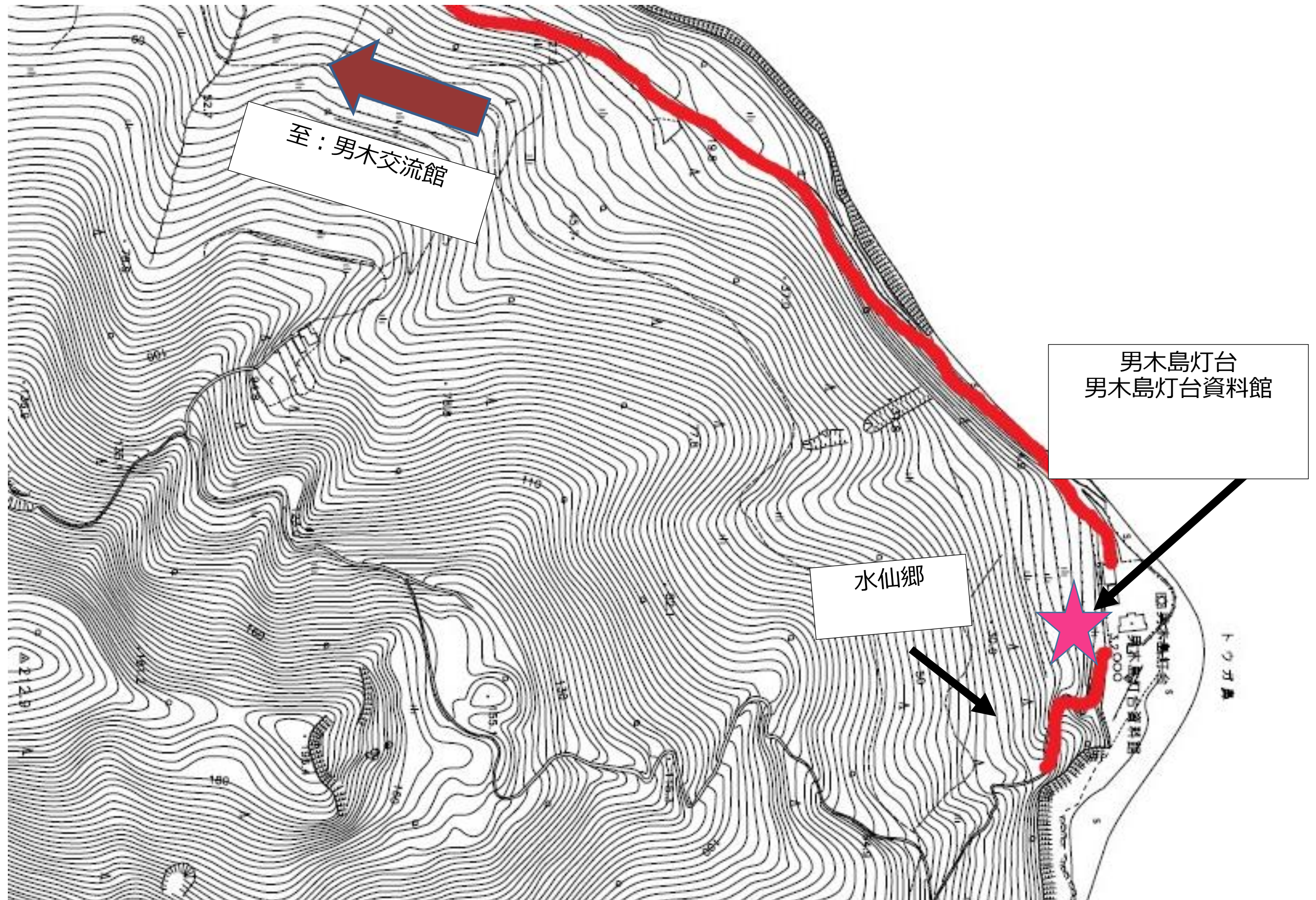
参考文献等

- ・『角川 日本地名大辞典 香川県』角川書店、昭和六十年
- ・『わが町の文化財探訪』高松市文化財保護協会、昭和五十九年
- ・『瀬戸内国際芸術祭ガイドブック二〇一六』現代企画室、平成二十八年
- ・瀬戸内国際芸術祭二〇一九ホームページ
<https://setouchi-aetfest.jp>
- ・土木学会 選奨土木遺産 ホームページ
<http://committees.jsce.or.jp/heritage/node/292>
- ・男木水仙郷をつくる会 ホームページ
<http://ww8.tiki.ne.jp/~ogi-island/>
- ・物語を届ける仕事【男木島 2 / 24 (日)】男木島のスイセン郷。1100万本のスイセンと海鮮魚市場
<https://yousakana.jp/suisen-ogi-island/>

ふるさと探訪「男木島の水仙を訪ねる」地図①（豊玉姫神社周辺）



ふるさと探訪「男木島の水仙を訪ねる」地図②（男木島灯台周辺）



2月24日(日)復路

◆フェリー

男木港(13時/15時/17時〔※最終〕)発。所要時間40分。

❖ 次回のふるさと探訪は…

- ◎テーマ:「明治150年企画② 四国村を訪ねる」(予定)
- ◎とき:平成31年3月10日(日)午前9時30分～正午
- ◎集合場所:四国村入口付近
- ◎駐車場:四国村駐車場(誘導有り)
※数に限りがありますので乗り合わせ等の御協力をお願いします。
- ◎講師:加藤 彬さん(学芸員)
- ◎参加費:900円(高校生500円、小中学生300円)
- ◎探訪距離:約3km(※坂があります)

★公共交通機関

- ◆琴電(琴電屋島駅から四国村まで徒歩約10分)
 - ◎行き:高松築港(8:32発)→瓦町(8:46発)→琴電屋島(9:01着)
 - ◎帰り:琴電屋島(12:21発)→瓦町(12:40発)→高松築港(12:45着)
- ◆JR(JR屋島駅から四国村まで徒歩約20分)
 - ◎行き:高松(8:33発)→JR屋島(8:48着)
 - ◎帰り:JR屋島(12:27発)→高松(12:43着)



★注意

☆広報「たかまつ」3月1日号に開催案内を掲載予定です。
(ホームページでは、より詳細な案内や過去の資料を御覧いただけます!)

☆小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうか御不明な場合、午前7時30分～9時30分に文化財課(Tel 087-839-2660)でお知らせします。電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。